

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : [codmokan@agate.plala.or.jp](mailto:codmokan@agate.plala.or.jp)

支援会員・寄金 3,000円 (年額)  
\*会員には、本通信を配布します。



《写真説明》11月4日

「修学旅行」in ニセコ

初日はキャンプ場、寒い夜を  
乗り切り、翌朝出発前の1コマ

## INDEX

- P1: 巻頭言/  
P2: ヒューマンラスト/  
スクール動向、会費納入、他  
p3: さっぽろフェスタ・レポート  
p4-5 修学旅行inカニセコ・定山溪  
～ガラス工芸/クライミング/ラグーン  
p6: 余市教育福祉村村20年  
p7: 自由が丘 SNS～HP 更新  
p8: エッセー、カンダー、他  
.....  
「年末物販」:ジヤマ・南部煎餅

## 「フィンランドに流れる空気と教育」

小学校教諭 太田 一徹

この夏、大学の教員をしている友人の誘いで、10日間ほどフィンランドを訪れることができた。小学校に勤める若い3人の女性教師との5人の旅となった。空港から首都ヘルシンキへの移動や他の町への移動するバスや列車の窓から見える景色は、なんと北海道に似ていることか。両側に並ぶ針葉樹の森林、時折広い畑とそこに建つ農家の赤い屋根。全く違和感がなかった。

そして、ヘルシンキの街は、教会をはじめとした歴史的建造物は多数あるものの、そのほとんどが徒歩可能圏にある。しかも、どこにでも行けるように、街中にトラム(市電)の線路が走っているのである。流れている空気がゆったりと実にやわらかいのだ。この国は何なのだろう？

フィンランド語は全くわからないのだが、肩の力がぬけていく。

ヘルシンキの街中で信号のない交差点を渡ろうと立ち止まると、必ず車が止まってくれて「どうぞ」と目配せしてくれる。「ありがとう」とおじぎをし手をあげると、ニコッと笑い「どういたしまして」と目で語る声が聞こえてくるのだ。そして、ゆっくりと車は離れていく。それが、どの交差点でも、どの地域でもなのだから…走る車のスピードもゆっくりである。

港や街中に立つマーケットには、何種類ものベリー(木の実)やキノコ、野菜が並んでいる。国土の68%が森林で湖沼の数は19万を超える、まさに「森と湖の国」「ムーミンやサンタクロースの住む国」なのだ。その森のほとんどは、誰でも自由に入り、木の実やキノコなどを自由に採れるのだ。「誰もが森や湖、自然を楽しむ」ことが権利として保障されているというのである。(p8へ続く)

[注:筆者は兼ねてより道民教活動を推進されており、今春より本NPO法人理事のお一人です。]